

市消防大会

地域消防力のさらなる向上を誓う

市消防団は4月15日、和田山ジュピターホールで朝来市消防大会を開催しました。



無火災を願って19分団が一斉放水

式では、3月末で退任された初代団長の南巧さんの後任として金田正夫さんを団長に任命。金田団長は「複雑多様化する災害に的確に対応できるように知識と技術の研さんに努め、安心安全な朝来市づくりを力をつくしてほしい」と団員に訓示しました。この後、新入団員の任命や消防活動などに功績のあった団員や家族に表彰状や感謝状などを伝達。さらに会場を円山川東河橋下流に移し、19分団が一斉放水を行いました。

退任のあいさつ

南巧さん



皆さんの支援をいただき、2年間の初代団長の職を務めさせていただいたことに感謝しています。これからも、新団長の下、市民の信頼と期待に応え、火事のない朝来市となるよう消防団の活躍に期待します。

就任のあいさつ

金田正夫さん



消防団長を拝命し、責務の大きさに身の引き締まる思いです。今年3月には火災が続いたこともあり、今後は啓発活動をより活発にし、住民の皆さんに一層の防火意識をもっていただけるようにしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

立松和乎さん特別講演

「南極で地球環境を考えた」

生野ロータリークラブは4月15日、マイホールで創立50周年記念の「立松和乎さん特別講演」を開催しました。

立松さんは、曾祖父が生野鉱山で働いていたこともあって、「生野ひいき人倶楽部」に入会するなど生野ファンの一人です。「南極で地球環境を考えた」と題した講演では、地球温暖化などの環境問題について、南極の氷の層に含まれる炭酸ガスの量の増加や、南極大陸上空に

訪れた立松さんの話を聞かされた体験者も多くは興味深く聴講していました。



きたオゾンホールなどを例に、「地球で一番厳しい環境にある南極で生活することで、人間の活動によって地球環境が大きく変動していることをじかに知った。地球は人間のためにはあるのではない。地球で生きていくために我々は地球環境を破壊するようにはせざるを得ず、環境を守るための手立てをとっていかねばならない。南極というところはほんとうにそういうことを感じさせる場所でした。」と、自らの南極での体験を織り交ぜながら、地球環境の大切さを話していました。

健康福祉大学八学・開講式

気分新たに、学園生活のスタート

朝来市健康福祉大学は4月21日、和田山農業研修センターで平成19年度の入学・開講式を行いました。

式では、新入生を代表して森田一男さんが「高齢者が生きがいをもって住みやすい健やかな長寿社会を創設するための学習を進め、地域社会への積極的参加を目標にしてがんばりたい。」と誓いの言葉を述べました。

また、式後は、受講の心得や講座の案内を聞き、新たな学園生活がスタートしました。

健康福祉大学は、園芸や手芸など8の専門講座を開講しています。

ここ数年生徒のいなかった生野からもひさしぶりに新入生が入り、総勢377人が希望した講座を受講しています。



43人の新入生を代表して森田一男さんがあいさつ